

# OSAKA MUSEUMS

vol.10 TAKE FREE

企画 織田 地 絹 絹 絹 (絹 絹) 部分  
江 代 1 世 代 入 阪 市 立 美 術 館 蔵  
平成 31 年 度 文 化 庁 地 域 博 物 館 を 中 核 と し た クラ ス タ ー 形 成 事 業



聴く、見る、わかる。

大阪市内  
6ミュージアムの  
スケジュール&トピックス  
10月-12月  
2019

## OSAKA MUSEUMS SCHEDULE & TOPICS

10月-12月

※金額表記のない展示などは、常設展示観覧料でご覧いただけます。  
※すべての施設は、中学生以下・大阪市在住の65歳以上の方(一部、特別展を除く)、障がい者手帳等をお持ちの方は無料です。  
※団体割引などがある場合があります。詳細は各施設にお問い合わせください。

	10月	11月	12月			
<b>大阪歴史博物館</b>	開館時間 / 9:30AM~5:00PM ※10/11~11/29の毎金曜日は8:00PMまで ※入館は閉館の30分前まで 休館日 / 火曜(祝日の場合は翌日)、 年末年始(12/28~1/4) ※10/22は開館、10/23は休館 常設展示観覧料 / 大人600円 高校生・大学生400円 ※特別展は別料金 http://www.mus-his.city.osaka.jp/	<b>8/21-10/14 特集展示 博学連携展vol.1</b> 商都大阪の文化力 大阪商業大学×大阪歴史博物館 創立70周年を迎える大阪商業大学とコラボし、大阪人の学び、遊びと 楽しみをテーマに、商都大阪の文化力の高さを紹介します。	<b>10/5-12/1</b> 特別展 勝矢コレクション刀装具受贈記念 決定版・刀装具鑑賞入門 昭和を代表する刀装具研究者である勝矢俊一氏の刀装具コレクション受贈を記念し、 鐔や小柄など約200点を展示します。大人800円、高校生・大学生600円	<b>10/16-2020年1/6</b> 特集展示 新発見!なにわの考古学2019 平成30年度に大阪市内で行われた発掘調査の最新成果を、 出土した数多くの遺物と調査地の写真パネルで紹介いたします。	牡丹獅子図鐔 銘 増田明珍 宗胤銀煉之 天保四年八月日 伊藤正常彫之 天保四年(1833)大阪歴史博物館蔵 (勝矢コレクション) 	大阪市中央区大手前4丁目1-32 tel. 06-6946-5728 
<b>大阪自然史博物館</b>	開館時間 / 9:30AM~5:00PM (11月~2月は4:30PMまで) ※入館は閉館の30分前まで 休館日 / 月曜(祝日・休日の場合はその翌平日)、 年末年始(12/28~1/4) 常設展示観覧料 / 大人300円 高校生・大学生200円 http://www.mus-nh.city.osaka.jp/	<b>11/16・17</b> 特別イベント 大阪自然史フェスティバル2019 自然関連のサークルや地域の自然保護団体等が 一堂に会して出展するイベントです。子どもから大人 までが自然を知る・学べる場になっています。		顔の装飾が美しい須恵器碗 古墳時代中期(5世紀中頃) 旭区高殿 7丁目所在遺跡 大阪市文化財協会保管 	大阪市東住吉区長居公園1-23 tel. 06-6697-6221 	
<b>大阪東洋陶磁美術館</b>	開館時間 / 9:30AM~5:00PM ※入館は閉館の30分前まで 休館日 / 月曜(祝日・休日の場合はその翌平日) 展示替期間(10/15~10/25、 12/9~12/20)、年末年始(12/28~1/4) 右記の料金で常設展も含め、 館内の展示すべてをご覧いただけます。 http://www.moco.or.jp/	<b>10/26-12/8</b> 特集展 受贈記念 辻井コレクション 灯火具一ゆらめくあかり 辻井コレクションの灯火具のうち、日本の陶磁器製品約25点を厳選。灯火具の多様な展 開をお楽しみください。一般500円、高校生・大学生300円	<b>12/21-2020年4/12</b> 特別展 竹工芸名品展: ニューヨークのアビー・コレクション-メトロポリタン美術館所蔵 アビー・コレクションの竹工芸約75件を、形や主題に関連する館蔵品 と併せ展示します。四代田辺竹雲斎氏による竹のインスタレーション も。料金一般1,200円、高校生・大学生700円	<b>7/13-10/14</b> 特別展 フィンランド陶芸 芸術家たちのユートピア -コレクション・カッコネ 一般1,200円、高校生・大学生700円	染付福祿寿文燗台 	大阪市北区中之島1-1-26 tel. 06-6223-0055 
<b>大阪市立美術館</b>	開館時間 / 9:30AM~5:00PM ※入館は閉館の30分前まで 休館日 / 月曜(祝日の場合はその翌平日)、 展示替期間(12/9~12/17)、 年末年始(12/28~1/4) コレクション展観覧料 / 一般300円 高校生・大学生200円 ※特別展は別料金 https://www.osaka-art-museum.jp この他のコレクション展(P2-3)も同時開催 10/12~12/8 特別展「仏像 中国・日本」	<b>10/12-11/24</b> コレクション展 屏風祭り2019 屏風には、複数のパネルで大画面を構成する作品のほか、さまざまな 種類があります。中・近世の多彩な屏風の魅力を鑑賞ください。	<b>10/26-12/8</b> コレクション展 荘厳供奉-仏教工芸の世界- 特別展「仏像 中国・日本」の開催にあわせて、仏教工芸の 世界を館蔵・寄託の金工品を中心に紹介します。	<b>10/12-12/8</b> コレクション展 うるわし漆碗 朱・黒 江戸時代を中心とする漆碗を紹介するとともに、根来や漆絵などに みられる、大らかな塗りや加飾技法の世界もご覧に入れます。	《日吉山王祭礼図屏風》 左隻・部分 江戸時代・17世紀 京都・金地版蔵 	大阪市天王寺区茶臼山町1-82 (天王寺公園内) tel. 06-6771-4874 
<b>大阪市立科学館</b>	開館時間 / 9:30AM~5:00PM ※展示場入場は4:30PMまで ※プラネタリウム最終投影は4:00PMから 休館日 / 月曜(休日の場合はその翌平日) 12/2~5、年末年始(12/28~1/4) 展示場観覧料 / 大人400円 高校生・大学生300円 プラネタリウム観覧料 / 大人600円 高校生・大学生450円 3歳以上中学生以下300円 http://www.sci-museum.jp/	<b>10/5-10/27</b> 国際周期表年2019特別展 今年科学の発展に活用された周期表の発明150年にあたり、 これを記念して周期表の歴史と魅力を紹介いたします。	<b>9/5-12/1</b> プラネタリウム 星空歴史秘話 星空は人類の歴史と共にありました。太古より人々が見上げて きた星空をたどりながら、人間と宇宙のつながりを探ります。	<b>9/5-12/1</b> プラネタリウム 天の川をさぐる 夜空にぼんやり輝く天の川。人類の宇宙観を大きく発展させた 天の川の正体を探る取り組みとその実像を紹介します。 ©GOTO INO/Evans & Sutherland	メンレーエフの 周期表(草稿) 	大阪市北区中之島4-2-1 tel. 06-6444-5656 
<b>大阪中之島美術館</b>	開館時間 / 9:30AM~5:00PM ※入館は閉館の30分前まで 休館日 / 月曜(祝日・休日の場合はその翌平日) 展示替期間(12/9~12/17)、 年末年始(12/28~1/4) 右記の料金で常設展も含め、 館内の展示すべてをご覧いただけます。 http://www.moco.or.jp/	<b>9/21-10/6</b> 開館プレイベント2019 「新収蔵品・サラ・モリス(サクラ)」 アートエリアB1にて開催(料金/無料)			アートエリアB1 大阪市北区中之島1-1-1 京阪電車なにわ橋駅 地下1階	

# 大阪市立美術館 「コレクション展」& ギャラリートーク

大阪市立美術館の開館は昭和11年（1936）。約8500件を数える所蔵品の中核をなすのは、大阪の篤志家たちが寄贈したコレクションの数々。世界に誇る中国書画を集めた「阿部コレクション」、近代の日本画作品を集めた「住友コレクション」、中国の石造彫刻を集めた「山口コレクション」、日本・東洋美術を広く集めた「田万コレクション」、そして江戸から明治期の漆器を中心に集めた「カザールコレクション」など。日本と東洋の貴重な絵画と工芸品を幅広く有している。また、近畿を中心とする社寺からの寄託品の管理・展示も行っている。

コレクターの審美眼が選び抜いたコレクションと寄託品を、それぞれの視点で展示構成するのは9人の学芸員たち。展示のテーマは折々によって異なり、特別展との関連性を持たせる場合もあるなど、担当学芸員の個性がちらりと垣間見えるのも面白い。この秋は特別展「仏像 中国・日本」の開催に合わせて、2階展示室にて6つの展示を同時開催する。

さらに、今年7月から、コレクション展の担当学芸員による「ギャラリートーク」も始まった。所蔵品は膨大な数に上るだけに、コレクション展での出会いはまさに一期一会。特別展だけでなく、時代もジャンルも異なる展示にますます注目してほしい。

# 学芸員が語る、 コレクションの魅力。



2階のコレクション展示室の入口前には、各コレクションを紹介するパネルがある。

## 10/12(土) - 11/24(日) 「画中人 中国の人物画」

絵画の中の人物は誰でしょうか？ここに描かれたのは、中国の北宋時代の偉大な文人・蘇東坡（蘇軾、1037-1101）です。官僚としても功績を残す蘇東坡ですが、政敵に憎まれて僻地へ左遷されるなど、苦勞の多い人生でした。

そんな東坡先生、実は大の硯好き。愛おしそうに硯（研）を抱える様子は往時の姿を彷彿とさせます。著名な書画家で石マニアとしても知られた友人の米芾から借りたままだった硯を、葬送の際に息子が棺に入れた

たとか。東坡先生、死ぬ時まで硯と一緒だったんですね。ちなみにこの画は、蘇東坡を敬愛する漢学者の長尾雨山が京都で寿蘇会（蘇東坡の誕生会）を開いた折、画家の王震が記念に描いて中国から贈ったもの。詩書画三絶のスーパースターは、今も昔もみんなの憧れなのです。

### 「画中人 中国の人物画」

神仙、儒仏の聖人、英雄や偉人、説話の登場人物、美人……など、館蔵・寄託の逸品より、中国の人物画を紹介します。



《東坡抱研図》  
王震(1867-1938)筆 民国8年(1919)  
大阪市立美術館蔵

## 10/26(土) - 12/8(日) 「誰が袖 工芸・絵画」

衣桁や屏風にたくさんの着物を掛けて描く「誰が袖」という題材があります。その由来は、梅の香りから「誰かの袖がふれた移り香」を連想して詠まれた古今和歌集の和歌とされています。

誰もいない空間に掛けられた着物の柄の美しさを鑑賞したり、たきしめたお香の香りを想像したりしながら「これは誰の着物なのだろう？」とイメージを膨らませる。部屋の主がいない時にプライベートな生活空間を垣間見るような、ドキドキした非日常感を楽しんでいただきたいです。

「誰が袖展」では、色とりどりの装束を描いた《源氏物語図屏風》のほか、香道具や着物なども展示。絵画と工芸、どちらが好きな方にもご覧いただきたいと思っています。

「誰が袖 工芸・絵画」  
「誰が袖」を題材とする、中近世の漆工を中心に、華やかな衣装を描く絵画や、着物なども紹介しています。



《源氏物語図屏風》  
桃山時代・17世紀  
大阪市立美術館蔵

## 10/26(土) - 12/8(日) 「仏教絵画 中国・日本」



《仏伝図》  
朝鮮時代・16世紀  
大阪市立美術館蔵  
(田万コレクション)



「仏伝図」(部分)  
自らの頭を布施する月光王。

この絵は朝鮮王朝時代（16世紀頃）に描かれた《仏伝図》です。「仏伝」とは釈迦の伝記のこと。ここでは有名な涅槃の場面などのほか、釈迦の前世の話が描かれています。中でも釈迦の前世とされる月光王が自らの頭を布施するという、ショッキングな場面は特に目を引きまします。左手で剣を挙げ、右手で自分の頭を掲げる男とそれを見る群衆。自分の体を他者へ施すというのは、究極の善行と言えます。

釈迦は、このお話のように前世において幾度も善行を積み、遂に悟りに至りました。超越した行いに、絵を見た人も心打たれたことでしょう。

### 「仏教絵画 中国・日本」

特別展「仏像 中国・日本」に合わせて、大陸で制作された仏教・道教の絵画や経典、日本において大陸風を意識して描かれた作品などを中心に展示します。

特集  
聴く、見る、  
わかる。

## Information

### 大阪市立美術館 ギャラリートーク

コレクション展の会期中に、担当学芸員によるギャラリートークが随時行われる。参加費は無料(コレクション展の観覧料は必要)。展示をより深く理解し、楽しむためのチャンス。開催日時はウェブサイトにてご確認ください。

### 大阪市立美術館 10～12月のコレクション展

この秋、大阪市立美術館では、この他にもコレクション展が目白押し。各展覧会の紹介はP8に。  
10/12(土)～11/24(日)  
「屏風祭り2019」  
10/26(土)～12/8(日)  
「うるわし漆椀 朱・黒」  
「荘厳供奉—仏教工芸の世界—」



過去のコレクション展の様子。拓本ややきものなど、幅広いジャンルの所蔵品を活かし、さまざまな展示が行われている。

# 最新の 考古遺物に 会いに。

## 大阪市文化財協会 「新発見!なにわの 考古学2019」

3万年前の旧石器時代から、1000年前の近代まで、大阪市内の遺跡にはこの地に生きた私たちの祖先の暮らしの痕跡が残されている。大阪歴史博物館と共催する「新発見!なにわの考古学」は、大阪市内で行われた発掘調査の成果を、1年に一度お披露目する特集展示だ。

「泥を落とした出土品は、一つずつ手描きで番号を記載。可能な限り復元して実測図に起こし、報告書にまとめています。展示するのは、数万〜数十万点から厳選したものなんです」と文化財協会学芸員の小田木富慈美さん。今年は、旭区の遺跡から出土した弥生時代の櫛形木製品や古墳時代の須恵器椀、中之島で見つかった明治初期の化学陶磁器など、約300点の出土品がお目見えする。

期間中は学芸員による展示解説や講演会なども予定されている。いつもの町からどんな遺物が出土したのか、聞いてみよう。

特集  
聴く、見る、  
わかる。



旭区高殿で出土した5世紀の須恵器椀。当時の職人が指先で角のある獣神の顔(おぞらく牛)を細工したもの。顔の下には小さな把手があったと考えられる。

### Information

#### 新発見!なにわの考古学2019

大阪市内における毎年の考古学の成果を目的の当りにできる貴重な機会。大阪歴史博物館8階特集展示室で開催(P8参照)。10月19日(土)、11月23日(土・祝)、12月21日(土)の各日2:00PMからは大阪歴史博物館の学芸員による展示解説あり(約30分間、無料。ただし入場には常設展示観覧券が必要)。また、12月14日(土)には講演会「大阪の歴史を掘る2019」も開催される(参加費500円)。

右/明治10~20年代の硫酸瓶。造幣局で貨幣製造のために使われた硫酸を貯蔵保管するために使われたという。薬壺、漏斗などの化学陶磁器とともに中之島6丁目から出土した。中/大坂城下町跡から出土した色鮮やかなかんざし。「遊女あるいはお洒落な武士が使っていたかもしれない」と小田木さん。左/旭区高殿にある弥生~古墳時代の集落遺跡から出土した櫛形木製品。櫛の土台部分にあたる。材木や物資の輸送に使われたと見られている。



# 2日間 で2万人! 自然好きのための祭典。

## 大阪市立 自然史博物館 「大阪自然史 フェスティバル」

「大阪自然史フェスティバル」は、自然をこよなく愛する人同士が出会い、語り合い、それぞれの興味を深めるお祭りだ。「各団体の方たちは、すごく気合を入れて準備して来られます」とNPO法人大阪自然史センターの山下和子さん。生き物をモチーフにした作品販売などもあり、つついづい足を止めてしまおう。

学芸員の石田惣さんも、「地域の生き物をずっと調査している団体の方たちは、僕たちが知らない情報を持っていることもあります。いい情報収集の機会になっています」と語るレベルの高さ。植物園でのバードウォッチング、自然を楽しく知るワークショップなども人気だ。学芸員の横川昌史さんは「市民のみならずの自然への眼差しを感じられる2日間。事前に時間を調べて上手に過ごしてほしい」とアドバイス。自然とのつきあいが確実に変わる体験が待っている。



### Information

#### 大阪自然史フェスティバル2019

11月16日(土)・17日(日)に開催(P8)。自然を楽しく学べる展示やワークショップ、講演会、バードウォッチングなども行われる。子どもから大人まで自然を楽しめる。当日のプログラムはWebサイトにて。運営継続のための寄付応援も受け付けている。  
<http://www.omnh.net/npo/fes/>

## 大阪市立科学館 プラネタリウム 「学芸員スペシャル」

今春、大阪市立科学館は新しいプラネタリウム投影機「インフィニウムOSAKA」を導入。リモコン操作も可能で、学芸員のライブ解説がますます充実した。6月からは「学芸員スペシャル」もスタート。「七夕ナイト」「アポロ月面着陸50周年」など、天文担当の学芸員たちが自由に選んだテーマに沿って、45分間の完全おまかせ投影を行っている。

石坂千春さんのスペシャルは、「とても有名なのに本物には会えない」天文界のアイドールの存在ブラックホール。「今年4月、初めてブラックホール撮影に成功したというニュースを取り上げています。真っ黒なブラックホールを撮影する難しさとその方法についてお話ししています」。ブラックホール愛あふれる解説に来場者の反応も上々だ。

# 科学の面白さは、 話してこそ。

星や太陽などの天体、科学的な現象や原理原則を、学芸員の解説は身近な生活のレベルで理解させてくれる。「作品」を見ればわかる美術館や博物館とは異なり、科学は話してこそ面白さが伝わる」と石坂さん。科学館においては、学芸員一人ひとりの存在がそれを担っている。

### Information

#### プラネタリウム 「学芸員スペシャル」

流星、太陽、恒星、銀河、宇宙論、観測、歴史、気象など、プラネタリウムを投影する天文担当学芸員7名が自らの個性・専門・時事に応じた解説を行う「おまかせ」投影プログラム。土・日・祝日などで各日1回、5:00PMからの回で行われている。



### 大阪市立科学館 開館30周年記念企画

開館30周年を迎えて、大阪市立科学館では「国際周期表年2019特別展」と「はやぶさ2」の研究現場で活躍するJAXAの研究者を招いてトークライブを開催する。「どちらもこの30年間に培ってきたネットワークが可能にしたイベント。科学館は、関西のみならず一緒に歩んできましたし、これからも共にありたいという気持ちを伝える契機にしたい」と学芸員の渡部義弥さん。人類の叡智である科学の最先端に触れるまたとない機会、どうぞお見逃しなく!

「はやぶさ2」トークライブ 9月28日(土)5:30PM~  
「はやぶさ2」プロジェクトのミッションマネージャー・吉川真准教授を迎えて、小惑星探査の最新のお話を聞くトークライブ。

「国際周期表年2019特別展」10月5日(土)~10月27日(日)  
今年「国際周期表年」。この世界のすべての物の基本となる「元素」を並べた周期表を楽しく学べる特別展。

# お仕事

## 大阪歴史博物館

2001年にオープンした歴史系総合博物館。大阪城と難波宮跡の間に位置し、「都市おさか」の歩みを展示する。10階「古代フロア」、9階「中世・近世フロア」、7階「近代・現代フロア」には原寸大の復元模型や豊富な実物資料。さらに音や映像でその時代を再現する。この春、新たに2人の学芸員が着任した。

## 小学生の頃から、タヌキや妖怪のフィールド調査をしていました。

学芸員 民俗担当 俵 和馬さん



関する聞き取りをしたことも。自由研究で魚の分布調査もしましたね。自分が好きだったことが、そのまま民俗学の研究につながっています。

私の専門は環境民俗学。農業に関わる技術や儀礼など、広い意味での人と自然の関わりから生まれる多様な民俗に関心を寄せてきました。今年から大阪歴史博物館に着任。都市の祭礼や絵馬や郷土玩具など、民俗の分野を担当しています。

もともと幼稚園の頃から、採集してきた石や植物や昆虫を自分の部屋に展示して、人に見せるような子どもだったんです。小学校の頃はタヌキの行動調査をしたり、父方の実家で妖怪に

もの。たとえ同じ人に同じ話を聞いても、聞き手の口調や空気感によって内容が変化してしまう。その変化を拾えることが強みであり、面白さでもあると思うのです。

知識も経験も豊富な当館の学芸員の中では、僕にはまだ蓄積がありません。しかしその未熟さを活かせば、来館者の目線で展示を考え、解説できるはずです。資料と来館者の間に立ち、その面白さをしっかり伝えたいと思います。

## 日本の建築を記録してきた「棟札」、その面白さを展示で表現したい。

学芸員 建築担当 阿部文和さん

今年から建築担当の学芸員として着任しました。まずは館内に眠る資料を展示につなげるのが最初の目標です。また、資料の収集や保存など、これまでの活動を継承しつつ、新たなことに挑戦できないか模索していきたいと考えています。

私自身は、江戸末期から明治の建築において、日本人の精神的な部分である建築儀礼の変遷を研究してきました。軸となつ



ているのは「棟札」という建物の建築主や職人の名前、造営の日付などが書かれた木札です。例えば、大阪の近代建築でも地鎮祭を行い、棟札を残す例があります。棟札は12世紀から現代に至るまで、全国各地の建物で見つかっています。時代、地域、用途を問わず続いてきた習わしであることも棟札の魅力の一つです。特に近代は西洋の文化と日本の文化が交わる時代です。この時代を研究することは非常に有意義だと考えています。いずれは建築儀礼や棟札に関わる展示も行いたいですね。

今は先輩たちの仕事を手伝いながら勉強を続け、一見しただけでは価値が伝わりづらい建築を、よりわかりやすく表現できる展示構成を考えていきたいと思っています。

## ミュージアム用語集

その6

### 【キャプション】

大阪市立東洋陶磁美術館の学芸員 野村恵子さんに聞きました。

キャプションとは、いわば作品の名札のようなもの。「題箋」とも呼び、作品の基本情報を記します。各館オリジナルでつくするため、実は展示に対する館の姿勢が現われる部分でもあります。

東洋陶磁美術館のキャプションは品名、時代、窯、サイズなどの情報に器底部の写真と作品解説も加えた、日英併記の大きなカード状の体裁です。



古陶磁には作者が命名した「作品名」というものはなく、学芸員が名称を考え、編年や産地を判断しています。当館の作品名は、やきものの種類↓技法↓文様↓器形の順で構成されています。器底部の形状も重要な情報です。美術館としてはキャプションのレイアウトにもさりげなくこだわっています。

学芸員の熱い思いがこめられたキャプション。作品鑑賞とともに楽しんでいただければと思います。

# 図鑑

## MUSEUMS TRIBUNE

### 第6回 ちち松村さん

illustration: Kyoko Yamakuni

大阪市立自然史博物館は、友の会会員になって通ったほど、僕の好奇心をくすぐり、満たしてくれる宝庫です。

『冬虫夏草を探しに行こう』という本で大ファンになった盛口満さんと、初めてお会いしたのもここででしたし、鳴く虫に興味を持った時にも、ちょうど「鳴く虫巡回展」というのをやっていて、そこで知った鳴く虫の声を録音するパイオニア・松浦一郎さんの息子さんにその場で電話して、録音資料を手に入れたこともありました。

同じ鳴く虫、セミにハマり、「世界一のセミ展」を企画された学芸員の初宿成彦さんに、NHK-FMの「世界の快適音楽セレクション」の特番に来ていただき、セミの話をも分に聞かせてもらった思い出もあり、とにかく生物だけでなく大切な人との出会いもここから生まれました。

もう一つ忘れられない出来事があり



ます。ゴンチチのコンサートリハール中に、パークツションのケースの中から妙な虫が出て来ました。それはどう見てもフトモモが太い珍虫！これはひよつとして新種ではないか？すると自分の名前がつくのでは？野望がむくむくと膨れ上がり、それを生きたまま持ち帰り、喜び勇んで自然史博物館に持ち込みました。

## 「ちちモモブトマメゾウムシ」。

来ました。そこには、あの虫が既に名前が付いているブラジル産のモモブトマメゾウムシの一種であること、大変珍しいものなので館に寄贈してほしいと書かれていました。ということ、名前がつくどころか自分のものでもなくなってしまうのです。博物館なら管理状態も万全だし、いつでも行けば見られるし、これで良かったと納得しました。

しかしその後、博物館の昆虫標本を見に行ったのですが、それはどこにも見当たりませんでした。それ以来あの虫とは一度も会っていません。という内容の文章を、当時僕が連載していた「シンラ」という雑誌に載せたものから、それを読んだ知り合いから宮武さんは「お前は何てひどいやつなんだ」と言われたと、二度目にいただいたお手紙に書かれていました。

「あの虫は間違いないく標本室に大切に保管していて、寄贈標本の目録にもあなたの名前は載っています。私は館に来られる人から標本を取り上げるタイプではないのですが、何となくねだってもいいかなあという感じがあなたからした」ということで、あの虫の生前の姿の写真まで同封されていました。後に、博物館で宮武さんと一緒に標本室であの虫と再会できた時の喜びは僕の宝物です。

## 夢の

ただしその場合この虫は殺さなければなりません。どうしますか。僕は迷いましたが、「ちちモモブトマメゾウムシ」という自分の名前がつくかもしれないという誘惑にかられ、お任せすることにしました。

しばらくして宮武さんから手紙が

## OSAKA MUSEUMS vol.11 2019年12月発行予定

『OSAKA MUSEUMS』では、大阪市立美術館、大阪市立自然史博物館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪市立科学館、大阪歴史博物館、大阪中之島美術館、大阪市文化財協会を中心として、大阪市の博物館・美術館の魅力と情報を紹介しています。

主な設置場所／大阪市内の各種情報センター、交通施設、文教施設、観光事業者、ホテル、複合商業施設、区役所ほか

2019年9月20日発行 発行／地方独立行政法人 大阪市博物館機構 〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32 大阪歴史博物館内 tel. 06-6940-4330(代表) 制作／株式会社140B(デザイン:津村正二 中務慈子 撮影:西岡渥 浜田智則 取材:杉本恭子) 表紙撮影協力／こころや

## ここにしかありません。 大阪市立科学館の「プラネタリウム投影機のイラスト入りボールペン」

大阪市立科学館では、開館30周年を記念したオリジナルグッズを発売。こちらの4色ボールペン(各1200円)は、昭和12年(1937)に前身である大阪市立電気科学館に導入された「カールツァイスII型」から、2019年にお目見えた「インフィニウムΣ-OSAKA」まで、歴代4台の投影機のシルエットがプリントされています。他に、科学館のネーム入り消せるボールペン(各250円)やクリアファイル(100円)、缶バッジ&ポストカードセット(200円)も販売しています。 ※いずれも価格は税抜き

